

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## 学生の授業外学習を促す試み： スマートフォンの活用

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2018-10-10 キーワード (Ja): 授業外学習, スマートフォン, Quizlet, ビデオ課題 キーワード (En): 作成者: 相原, 里美 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/00007833">https://doi.org/10.18956/00007833</a>

# 学生の授業外学習を促す試み

— スマートフォンの活用 —

相 原 里 美

## 要 旨

本学英語国際学部では、1年次に週8コマ（1コマ90分）の英語関連の授業と週4コマの中国語の授業があり、2年次には英語圏と中国にそれぞれ1学期間教育課程上の語学留学に赴く。中国語を専門的に学ぶ他大学の学生とは異なり、本学部での中国語の授業時間数が少ないため、本学の学生が中国語を習得するためには、とりわけ継続した授業外学習が必要不可欠となる。学生たちは、将来英語と中国語を活かした職業に就きたいという希望があるにもかかわらず、実際には中国語の授業外学習時間があまり確保されていないのが現状である。その原因として、他の科目の学習に忙しく中国語にまで手が回らない、中国語の発音がわからなくてやる気がでないなどの意見が聞かれた。

そこで、学生たちの積極的な授業外学習を促すため、今や学生たちが肌身離さず所持・利用しているスマートフォンを活用することとした。その試みと効果についての分析結果をここに提示する。

キーワード：授業外学習、スマートフォン、Quizlet、ビデオ課題

## 1. はじめに

### 1.1 本務校における中国語教育

関西外国語大学英語国際学部では、1年次に週8コマ（1コマ90分）の英語関連の授業、週4コマの中国語の授業、さらに教養教育科目を履修するため、1日平均4コマの授業を履修している。また、2年次には1学期間の英語留学（原則全員）と1学期間の中国留学（推奨）が教育課程上の留学としてカリキュラムに組み込まれている。

初修言語である中国語の授業は、文法中心の基礎中国語（春）・初級中国語（秋）、会話中心の中国語会話Ⅰ（春）・中国語会話Ⅱ（秋）が週2コマずつ設定されており、筆者は文法中心の授業（春学期3クラス、秋学期4クラス）を担当している。なお、2年次以降には、中級中国語、検定中国語A・Bの3科目が設定されている。

## 1.2 クラス編成

本学部では、入学前に行われる英語テスト GTEC<sup>1)</sup> による英語のレベル別クラスが、そのまま中国語のクラス編成（レベルの高い順に1クラス～24クラスまで）に採用されている。一クラスおよそ30～40名の学生数で、3年次編入生や再履修者も含まれている。筆者は全24クラスのうち、4・5・6・23クラスを担当していた（2016秋学期）。このうち、4・5・23クラスは春学期から継続して担当し、6クラスに関しては、秋学期から担当した。

## 1.3 2年次の中国留学

本学部では、2年次に1学期間の英語圏留学と中国留学が推奨されており、全体の約6割（約400名）の学生が中国へ留学している。どちらの学期にどの国に行くかは、国際交流部が決定しているため、学生たちに選択権はない。いずれにせよ、中国では留学先の各大学でクラス分けテストが実施されており、自分の実力にあったクラスで4ヶ月間学ぶことができる。ただ、規模の小さな大学では、クラス内に本学学生が多数となる場合がある<sup>2)</sup>。

## 1.4 現状と課題

英語学習の負担を鑑み、学生にあまり負荷がかけられないのが現状であるが、少しでも留学先での生活を円滑にスタートさせてもらうため、また、一段階でも高いレベルのクラスに入ってもらうためには、やはり毎日の授業外学習による基礎学力の定着が必須となる。授業外での中国語学習時間を少しでも確保してもらうため、担当クラスでは毎授業の初めの10分間に予習のための単語・例文の聞き取りテストを実施し、成績に反映させている（2016年度の場合、成績の10%を占め、小テストの平均点をそのまま点数とした）。

しかし、2016年度春学期に行った小テストでは、10点満点中5点も取れない学生や、出題番号だけを書いて提出する学生が多数いるなど、なかなか理想的な結果を得ることができなかった。そこにはさまざまな要因が考えられるが、英語学習に時間をとられすぎて中国語の学習時間が確保できない、中国語の発音やピンインが難しすぎる、中国語の正しい発音がよくわからないが教科書付属の音源を聞くのは面倒、といった声が聞かれた。

## 1.5 スマートフォンを活用した取り組み

そこで、2016年秋学期から、学生の授業外での学習を促すために、また、継続して楽しく学習ができるように、ほとんどの学生が毎日必ず利用するスマートフォンを活用することにした<sup>3)</sup>。まず、単語学習アプリ Quizlet を導入し、春学期と同形式の小テストを毎回の授業で実施した。さらに、カメラ機能を使って、自撮り動画の作成を課題とし成績に反映させた。学期末には、クラス全体にアンケート調査を行い、小テストの成績の変化や授業外学習時間の変化

について分析した。

## 2. 単語学習アプリ Quizlet の活用

### 2.1 単語学習アプリ Quizlet とは

Quizlet はアンドリュー・サザーランドが開発した無料のオンライン学習ツールである。簡単に言えば、多言語に対応した合成音声付きフラッシュカードのことである。活用例は様々で、言語教育だけでなく、教養教育の分野でも活用されている。Quizlet はパソコン・スマートフォン・タブレットなど Web ブラウザが使用できる環境であれば利用することができる。ただし、使用する端末によって利用できる学習機能が異なっている。学習セットを自分で作成・アレンジすることもできれば、他人が公開している学習セットを学習することもできる。詳しくは、清原 (2014) を参照されたい。

### 2.2 スマートフォンで使える Quizlet アプリの主な機能

スマートフォンで使えるアプリの機能は、学習 (単語をフラッシュカードで覚えながら、様々な形式で練習・確認)・カード (合成音声付きフラッシュカード)・筆記 (日本語→中国語、中国語→日本語の入力確認)・マッチ (カード合わせゲーム)・テスト (自動作成テスト) の 5 つがある (2018年 4月現在)。頻繁に機能が更新されているので、今後新機能が增える可能性もあるが、基本的には、この 5 つの機能だけでも学習セットの内容は充分学習できる。

### 2.3 Quizlet の学習セットの共有

スマートフォンで Quizlet を利用する場合、Web ブラウザからアクセスするか、アプリをダウンロードする必要がある。アプリは無料でダウンロードができ、アカウント登録も無料でできる。アカウントを登録すると、自分で学習セットを作成することができるが、他人の作成した学習セットを利用するだけであれば、アカウント登録をする必要はない。

今回は、教員が毎回小テストの出題範囲の単語や例文を Quizlet に入力作成し、学生自身がアカウントを保有していなくともインターネット上で利用可能な Twitter を通じて学生に配信する方法をとった。

またスマートフォンを持っていない、自宅にインターネット環境が整っていない学生のこととも考慮し、Quizlet を利用しなくとも小テストの勉強に支障がでないよう、教科書付属の MP3 で聞ける内容のみにとどめた。

## 2.4 小テストの出題形式と採点方法

本学英語国際学部では、筆者が担当する基礎中国語（春学期）・初級中国語（秋学期）は、朝日出版社の「好きです中国語（文法編）」の教科書を統一で採用している。学習範囲も全クラス統一シラバスのため、基礎中国語は発音編から第8課まで、初級中国語は第9課から第16課までとなっている。授業は、1課分を3コマ（1コマ90分）で完結する計画で進めているため、前半2回は単語の聞き取りテスト、残りの1回は例文の聞き取りテストを行なった。いずれも予習としての学習を想定しているため、復習としての小テストよりも難易度はやや高い。いずれも教員又は中国人留学生のクラスチューター<sup>4)</sup>の発音を聞いて書き取る10点満点の小テストを用意した。単語の場合は、10問出題し各問いについて簡体字・声調付きピンイン・日本語訳の3つが全て正解で1点、2つ正解で0.5点とし、合計後小数点以下は繰り上げた。例文の場合は、5問出題し、簡体字のみを書きとらせ、全て正解で2点、1単語のミスで1点とした<sup>5)</sup>。クラス毎に小テストの難易度に差が出ないように、各クラスの小テストは全く同じものを使用した。また、全小テストの平均点をそのまま成績（10%）に反映した<sup>6)</sup>。

## 3. アンケートの調査結果(1)

### 3.1 Quizlet の使用状況

2016年度秋学期から使用を開始した Quizlet の使用状況に関するアンケートの結果は、以下ようになった。なお、アンケートに回答した人数は、4クラス29名、5クラス27名、23クラス28名の合計84名であった。また、秋学期のみ担当した6クラスについては、春学期の学習データがないため、分析対象としないこととした。

Q.1 先生から提供された Quizlet を授業外学習でよく利用した。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	5人	13人	2人	3人	6人
5クラス	13人	7人	2人	2人	3人
23クラス	5人	14人	6人	2人	1人
全体	23人	34人	10人	7人	10人

Q.2 Quizlet を1回につき約〇〇分間利用した。

①1時間以上②50～60分間③30～40分間④10～20分間⑤10分未満

学生の授業外学習を促す試み

	①	②	③	④	⑤
4クラス	1人	0人	4人	18人	6人
5クラス	1人	0人	1人	20人	5人
23クラス	0人	2人	7人	16人	3人
全体	2人	2人	12人	54人	14人

Quizletの使用頻度について、Q.1に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は、4クラスが29名中18名（62%）、5クラスが27名中20名（74%）、23クラスが28名中19名（68%）となった。全体でも6割から7割の学生がQuizletをよく利用したと感じ、1回あたりの利用時間は、いずれのクラスも10～20分が最も多かった。またこのほか、「Quizletを1週間に何回利用しましたか」という質問に対し、84名中54名（64%）が週1～2回、15名（18%）が3回以上と回答している。つまり、週2回ある小テストの前に、それぞれ1回10～20分程度利用していた学生が多かったことになる。

### 3.2 Quizletの使用に対する学生の反応

次にQuizletの使用に対する学生の反応に関するアンケートの結果は、以下のようになった。

Q.3 Quizletは小テストの勉強に大変役に立った。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	9人	12人	5人	2人	1人
5クラス	17人	4人	1人	2人	3人
23クラス	13人	10人	4人	0人	1人
全体	39人	26人	10人	4人	5人

Q.4 Quizletを使った学習は楽しくできた。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	12人	11人	2人	0人	4人
5クラス	12人	13人	0人	0人	2人
23クラス	0人	8人	13人	3人	4人
全体	24人	32人	15人	3人	10人

Q.5 小テストがなければ、Quizlet は活用していなかったと思う。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	13人	8人	5人	1人	2人
5クラス	8人	14人	3人	0人	2人
23クラス	11人	9人	2人	2人	4人
全体	32人	31人	10人	3人	8人

Quizlet の使用に対する学生の反応をクラス別に見てみると、Q.3に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は、4クラスが29名中21名（72%）、5クラスが27名中21名（78%）、23クラスが28名中23名（82%）となった。全体で77%の学生が小テストの勉強に役立ったと回答した。また、Q.4に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は、4クラスが29名中23名（79%）、5クラスが27名中25名（93%）となり、この二クラスに関しては、約8割の学生が楽しみながら学習できていたことがわかった。一方、Quizlet の利用率も高く小テストの勉強に役立ったと回答する学生が多かった23クラスでは、楽しく学習できた学生は28名中8名（29%）にとどまった。Q.5に対しては、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は、84名中63名（75%）にのぼり、楽しく学べるアプリではあっても、「小テストで良い点をとる」といった目的がなければ、なかなか活用されにくいことが窺えた。

#### 4. 小テストの結果からみた変化と効果

##### 4.1 分析対象

小テストの春学期から秋学期への変化についての分析は、春学期と秋学期を共に担当した4・5・23クラスのうち、学期末に行ったアンケート調査に回答した学生80名（4クラス-27名・5クラス-26名・23クラス-27名）のみを対象とした。

##### 4.2 クラス全体の集計結果

学生それぞれが獲得した小テストの結果<sup>7)</sup>の平均を出し、そこからクラス平均を算出した。各クラスにおける小テストの結果の変化は以下ようになった。

	春学期		秋学期		秋-春
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均の差
4クラス (n=27)	5.42	1.69	6.05	1.96	0.63
5クラス (n=26)	4.67	1.36	5.15	1.69	0.48

23クラス (n=27)	5.99	1.54	6.22	2.06	0.23
全体 (n=80)	5.37	1.61	5.81	1.95	0.44

春学期から秋学期にかけて、どのクラスも平均点に上昇がみられた。また、23クラスに関しては、春学期と秋学期の平均の差は、三クラス中最も少なかったが、両学期とも平均点が全クラスのうちに最も高かった。

なお、秋学期の小テストの平均点が春学期より上がった学生は、4クラスで27名中21名(78%)、5クラスで26名中18名(69%)、23クラスで27名中15名(56%)であった。

#### 4.3 Quizlet 活用者の平均値と効果

次に、Quizletの使用が小テストの結果に反映されるかどうかを判断するために、アンケート調査のQ.1で「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生の小テスト結果のみを算出し、春学期と秋学期の小テストの平均値の差を有意水準5%で両側検定の $t$ 検定により検討した。

クラス	春学期		秋学期		$t$		効果量
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	$t$ 値	$p$ 値	$r$ 値
4 (n=16)	5.29	1.57	6.31	1.70	1.769	.097	0.415
5 (n=20)	4.94	1.27	5.42	1.58	1.046	.309	0.233
23 (n=18)	5.94	1.71	6.32	2.25	0.559	.584	0.134
全体 (n=54)	5.38	1.59	5.99	1.93	1.803	.077	0.240

その結果、全体では $t(53) = 1.803$ 、 $p = .077$ 、 $r = 0.240$ となり、春学期と秋学期の間に有意差は認められず、効果量も小程度ではあったが、4クラスでは $t(15) = 1.769$ 、 $p = .097$ 、 $r = 0.415$ で有意差は認められないものの、中程度の効果量が確認された。

#### 4.4 Quizlet 非活用者の平均値

それに対し、Quizletをあまり活用していなかった(Q.1のアンケート調査で「どちらともいえない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」と回答した)学生の小テストの成績の変化は、以下ようになった。

クラス	春学期		秋学期		秋—春	$t$	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均の差	$t$ 値	$p$ 値
4 (n=11)	5.60	1.85	5.66	2.26	0.06	0.065	.950
5 (n=6)	3.75	1.23	4.23	1.70	0.48	0.581	.586
23 (n=9)	6.10	1.04	6.01	1.55	-0.09	0.146	.888



全体 (n=26)	5.35	1.69	5.45	1.94	0.10	0.206	.839
-----------	------	------	------	------	------	-------	------

どのクラスも平均の差や $p$ 値が示すように、春学期と秋学期の間に有意差は認められなかった。

## 5. スマートフォンのカメラ・ボイスメモ機能を活用

### 5.1 ビデオ課題の目的

ビデオ課題<sup>8)</sup>の目的は、実際に自分が言いたいことを中国語にしてみる、発音の自己チェックをするということにある。文法ポイントを習った直後の翻訳練習とは異なり、作文で自分の言いたい事を表現するには、どの言い回しを使わなければならないか、自分で判断しなければならない。また、各クラスに配置されている中国人留学生のクラスチューターにネイティブチェックをしてもらうことで、中国人がよく使う言い回しを知ることができる。さらに、チューターの正しい発音をスマートフォンのボイスメモに録音し、それを何度も聞いて発音することで、中国語らしいイントネーションを身に付けることができる。また、ビデオの場合、自分の発音と口の形を確認でき、何度も撮り直しがきくため、納得がいくまで練習をすることが期待される。そして、留学先や就職の面接等で活用できる内容にすることで、学生もやりがいを感じながら取り組めるようにした。今回はテーマを「自己紹介」と「私の○○」とし、評価は成績の10%（各5%）とした。

### 5.2 ビデオ課題の形式

「自己紹介」の原稿は、まず名乗ってから自分の名前の漢字の説明を入れることとした。その後2年次における留学先で使えるような自己紹介を中国語で考え、チューターのネイティブチェックを受けさせた。「私の○○」については、「○○」の部分を各自自由に選んでもらい、形式も特に指定項目を設けず作成させ、同じくチューターのチェックを受けさせた。原稿が確定したら、チューターに原稿内容をスマートフォンに録音してもらい、それを聞きながら発音練習する。そして、全てを暗記し、より自然な中国語で撮影する。採点基準は、中国語の発音（特に声調に乱れないか）2点、抑揚（棒読みになっていないか）2点、暗記（原稿を見ていないか）1点とした。また、制限時間を課題①「自己紹介」を30秒以上1分以内に、課題②「私の○○」を1分以上1分30秒以内に設定し、それぞれ期日までに自撮りしたビデオと原稿（簡体字でワープロ書き）をスマートフォンアプリのWeChat、E-mail、AirDrop（iPhone限定）のいずれかの方法を選択し提出させた。

## 6. アンケートの調査結果(2)

### 6.1 ビデオ課題の授業外学習時間

ビデオ課題を課すことで、学生が授業外にどれほどの時間を費やしたかについて、84名が提出した課題①「自己紹介」に関するアンケート結果<sup>9)</sup>を以下にまとめた。

Q.6 ビデオ課題「自己紹介」の作文に授業外で〇〇分費やした。

① 1時間以上②50～60分間③30～40分間④10～20分間⑤10分未満

	①	②	③	④	⑤
4クラス	5人	2人	14人	7人	1人
5クラス	9人	6人	10人	2人	0人
23クラス	3人	2人	17人	5人	1人
全体	17人	10人	41人	14人	2人

Q.7 ビデオ課題「自己紹介」のために、合計約〇〇分間練習した。

① 4時間以上②～4時間③～3時間④～2時間⑤～1時間⑥～30分間⑦ほぼ0分

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
4クラス	1人	1人	4人	12人	8人	1人	2人
5クラス	1人	1人	7人	14人	3人	1人	0人
23クラス	0人	0人	1人	2人	11人	9人	5人
全体	2人	2人	12人	28人	22人	11人	7人

「自己紹介」の「原稿を完成させるまで」に費やした時間は、各クラスとも「30～40分」が最も多く、84名中41名（49%）であった。それ以上時間を費やした学生も27名（32%）であった。また、原稿完成後、提出ビデオを完成させるまでの練習時間<sup>10)</sup>は、84名中62名（74%）が「1～3時間」と回答した。ただ、ほとんど練習せずに課題を提出した学生も84名中7名（8%）いた。その他、ビデオを撮影するだけでなく、編集して中国語の字幕をつけたり、コメントやイラスト・写真を追加したりして提出した学生は、さらに時間を費やして課題を完成させていた。

### 6.2 ビデオ課題に対する学生の反応

ビデオ課題を課すことにより学生たちがどのように感じていたかに関するアンケートの結果は、以下ようになった。

Q.8 ビデオ課題「自己紹介」は、留学時や就職時に役立つと思う。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	10人	13人	3人	3人	0人
5クラス	7人	16人	3人	0人	1人
23クラス	5人	15人	7人	1人	0人
全体	22人	44人	13人	4人	1人

Q.9 ビデオ課題「自己紹介」の練習は、楽しかった。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

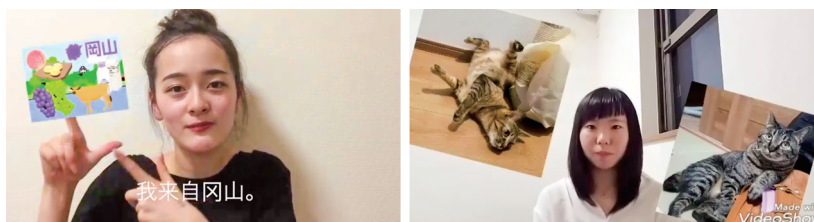
	①	②	③	④	⑤
4クラス	3人	12人	6人	4人	4人
5クラス	3人	9人	7人	6人	2人
23クラス	1人	4人	10人	8人	5人
全体	7人	25人	23人	18人	11人

Q.10 ビデオ課題に関する率直な意見をお聞かせください。

- ・長い中国語の文を暗記しなければいけなかったのでとても大変でしたが、とてもためになりました。
- ・大変だったけど、完成した時の達成感が良かった。
- ・作文をネイティブにチェックしてもらえる機会ができて良かった。
- ・中国語が苦手なので正直とても辛かったです、力にはなりました。
- ・初めは乗り気じゃなかったけど、やってみると楽しかった。
- ・とにかく恥ずかしかった。
- ・覚えるのが苦痛でストレスが溜まり、気分が優れない日が続いた。

ビデオ課題「自己紹介」について、Q.8に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は84名中66名（79%）であった。それに対し、Q.9に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した学生は84名中32名（38%）にとどまった。役立つとわかってはいるが、やっていて楽しい課題ではないと感じている学生が多かった。また、Q.10については、これまで課されたことのなかった課題に直面して、初めは乗り気ではなかったり、苦痛を感じたりしていた学生が多かった。しかし、いざ仕上げてみると、ネイティブの留学生に原稿をチェックしてもらえたこと、ネイティブの発音を録音してもらえたことを貴重な経験と捉え、難しい課題を完

成させたことに達成感を感じ、課題を肯定的に捉え直した学生も少なからずいたことが窺える。中には、字幕をつけたり、写真を取り込んだり、BGMをつけたりと本格的に編集して提出した学生もいた。ただ、秋学期から担当した6クラスでもこの課題を実施したが、課題を受け入れられず提出しなかった学生が2名いた。



「自己紹介」サンプル（2017年度1年生のビデオ）

## 7. アンケートの調査結果(3)

### 7.1 授業外学習時間の変化について

学生の春学期と秋学期の授業外学習時間の変化に関するアンケートの結果は、以下のようになった。

Q.11 春学期と比べると秋学期の方が、授業外学習時間が増えた。

①とてもそう思う②そう思う③どちらともいえない④そう思わない⑤全くそう思わない

	①	②	③	④	⑤
4クラス	7人	12人	4人	3人	3人
5クラス	8人	12人	4人	2人	1人
23クラス	2人	7人	8人	6人	5人
全体	17人	31人	16人	11人	9人

Q.12 秋学期の方が授業外学習時間が増えたのは、○○の学習時間が増えたからだ。

①ない（増えてない）②予習③復習④小テスト（Quizlet）⑤ビデオ課題⑥HSK  
⑦E-ラーニング⑧作文コンクール（複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
4クラス	2人	2人	2人	19人	16人	7人	5人	1人
5クラス	2人	7人	2人	16人	13人	4人	0人	1人
23クラス	10人	1人	2人	11人	7人	6人	6人	0人
全体	14人	10人	6人	46人	36人	17人	11人	2人

Q.13 秋学期の方が授業外学習時間が増えたのは、〇〇からだ。

- ①増えていない②授業の難易度が上がってきた③留学前にそろそろ焦ってきた  
 ④もっと中国語が話せるようになりたい⑤中国語が楽しくなってきた  
 ⑥単位を落としたい⑦周りのクラスメートの刺激を受けた（複数回答可）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
4クラス	5人	16人	6人	6人	6人	15人	4人
5クラス	3人	14人	8人	7人	3人	11人	6人
23クラス	10人	12人	6人	4人	2人	8人	2人
全体	18人	42人	20人	17人	11人	34人	12人

授業外学習時間の変化について、Q.11に対し「とてもそう思う」、「そう思う」と回答したのは、4クラスで29名中19名（66%）、5クラスで27名中20名（74%）であり、およそ7割の学生が、春学期より秋学期の授業外学習時間が増加したと回答した。一方、23クラスでは秋学期の授業外学習が増加したと回答する学生は、28名中9名（32%）にとどまった。このことから推察されるのは、23クラスの学生は、春学期より秋学期の授業外学習が減少した、あるいは、春学期と同様に秋学期も授業外学習が行われていた、または、両学期とも授業外学習が行われていなかった、のいずれかである。ただ、4.2で述べたように、小テストの平均点が最も高かったのは23クラスであったため、両学期とも同じ様に授業外学習時間が確保されていたことが窺える。

また、どの授業外学習時間が増加したのかについて、Q.12の回答をみると、「Quizlet 学習を含む小テストのための学習」が84名中46名（55%）で最も多く、ついで「ビデオ課題の学習」が84名中36名（43%）であった。

さらに、春学期から秋学期にかけてどんな心理的变化があったのかについて、Q.13の回答をみると、「授業の難易度が上がってきた」が84名中42名（50%）で最も多く、ついで「単位を落としたい」が84名中34名（40%）であった。たしかに、入門から初級レベルに入る秋学期の授業内容は、難易度が随分上がり、授業時においても、「難しくなってきた」という声がよく聞かれていた。また2年次に2カ国留学するためには、秋学期の履修科目全てを習得しなければならず、1科目でも単位を落とせば参加資格を失うため、このような結果になったと推測される。

## 8. まとめ—取り組みの成果と今後の課題

今回、小テストの学習に Quizlet を導入したり、ビデオ課題を課したりしたことにより、中

国語の授業外学習の時間が少しでも増えたと感じた学生は、小テスト（Quizlet）で55%、ビデオ課題で43%であった。また、Quizletを活用していた学生の小テストの結果からみると、Quizletを使用することにより小テストの結果に小から中程度の効果が認められた。しかし、この効果の要因がQuizletによるものなのか、他にも要因があるのか、更なる検討が必要である。

また、今回は様々な制約があり、全学生にQuizletの使用を促すことができず、Quizletや小テストの内容を教科書の単語と例文のみに限定せざるを得なかった。ビデオ課題に関しては、統一シラバスのため成績の配分が5点分しか設けられなかった。したがって、課題の採点の点数の差別化が難しく、明らかな練習不足でない限り、減点はしなかった。今後は、提出されたビデオを採点し、修正点を指摘してから、チューターを交えて練習、そして再提出させて成績をつけるという流れができれば、より一層発音の誤りを修正し、抑揚をしっかりと付けて話せるようになることが期待される。また、ペアとなっている会話クラスの先生とも連携をとって、会話クラスでも練習ができれば、さらに練習の効果が上がるだろう。

また、継続して学習ができるように、楽しく手軽に取り組んでもらうという目標を掲げていたが、Quizletは約6割の学生が楽しみながら学習できていたのに対し、ビデオ課題に関しては、楽しめた学生は約4割にとどまった。ビデオ課題は、「させられている」、「単位のために仕方なく」と感じる学生が多かったので、今後は動機付けにおいてさらなる工夫が必要であることがわかった。

現在、ほとんどの学生がスマートフォンかタブレット又はPCのいずれかを所持している<sup>1)</sup>。特にスマートフォンに関しては、1日の使用時間が長時間にわたっているため、この時間の一部を学習時間に割り当ててもらえれば、手軽に授業外学習時間を確保できることが期待される。教員が課題を与え、学生が授業外で学習（一部をスマートフォンで学習）、授業の試験や資格試験で確認するという習慣がつけば、学力の向上にも繋がっていくだろう。

今後はQuizletで使用する学習セットの内容を充実させることや、他のアプリの活用も検討していきたい。その上で、学生への導入方法を工夫し、しっかり動機付けを行い、学生の授業外学習時間の増加及び学習効果の向上につなげていきたい。

## 注

- 1) ベネッセコーポレーションが実施しているスコア型英語技能検定（Global Test of English Communication）のこと。本学では2技能（リスニングとリーディング）検定を採用（2016年度）。
- 2) 本学英語国際学部では、中国の提携先8大学（北京語言大学・北方工業大学・天津外国語大学・天津理工大学・大連外国語大学・上海外国語大学・西安外国語大学・浙江越秀外国語学院）に各学期200

名程度の学生を派遣している。

- 3) 筆者が2016年12月に行ったアンケートによると、アンケートに回答した84名中80名(95%)がスマートフォンを常用し、スマートフォンを所有していない学生でも、タブレットかPCのいずれかを所持していた。また「スマートフォンを一日平均何時間使用しますか?」という問いに対し、1時間以内と回答した学生が84名中7名(8%)で、3時間以上と回答した学生は84名中47名(56%)に及んだ。
- 4) 本学英語国際学部では、1年次の全中国語科目に週1回中国人留学生がチューターとして各クラス2名ずつ配置されている。
- 5) 単語テストは予習として新出単語から出題し、例文テストは学生の負担を軽減し、少しでも学生自身の自信につながるよう、既習の例文でピンインは問わないこととした。
- 6) 小テストは10点満点中5点を合格点とし、5点未満の学生にはやり直しの課題をつけて返却し、提出した学生には、獲得した点数を5点まで引き上げ成績に反映することとした。
- 7) 小テストの個別の結果については、巻末の付録資料に提示した。
- 8) 2014年の中国語教育学会第11回全国大会で、大阪大学の岩居弘樹氏によるドイツ語のiPadを活用した学生によるビデオ作成が紹介された。実践されているものは、3-4人グループによる対話形式のものを撮影し、字幕をつけたり、間違いをメモしたりする内容であった。これをもとに、筆者は本学のシラバスや学生の負担を考慮し、一人で撮影できるスピーチ形式の課題とした。
- 9) 課題②「私の○○」については、アンケート調査日と提出日が前後したクラスや、期日後に提出した学生も多数いたため、詳しいデータが取れなかった。期日を守って提出させることも今後の一つの課題となった。
- 10) アンケート調査の際、学生から「練習とはいつまでを指すのか?」という質問が出た。学生によってはビデオを取りながら練習する学生もいれば、練習をしてから本番を一回で済ませる学生もおり、「ビデオを撮り始めるまで」、「ビデオを完成させるまで」との認識の相違があった。そのため、「提出ビデオを完成させるまでに費やした時間」を計算することとした。
- 11) 2017年度春学期担当の102名、秋学期担当の134名、2018年度春学期担当の76名は全員スマートフォンを所持している。

## 参考文献

- 岩居弘樹「iPadを活用した学生によるビデオ作成(特集中国語教育学会第11回全国大会報告)」、『中国語教育』12号、2014年、38-45頁。
- 清原文代「デジタルで授業を豊かに! : 繰り返し練習:TISと中国語音声入力、音が出てゲームもできる単語カードQuizlet(特集中国語教育学会第11回全国大会報告)」、『中国語教育』12号、2014年、30-37頁。
- 竹内理・水本篤『外国語教育研究ハンドブック【改訂版】研究手法のより良い理解のために』東京:松柏社、2014年。

三浦省五監修、前田啓朗・山森光陽編著、磯田貴道・廣森友人『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究—』東京：大修館書店、2004年。

付録

2016年度秋学期担当クラス（4・5・23）の小テストの結果

学生	クラス	春学期平均	秋学期平均	秋学期—春学期	Quizlet 活用者
学生 1	23	6.79	9.73	2.94	*
学生 2	4	3.21	5.96	2.75	*
学生 3	4	5.28	7.87	2.59	*
学生 4	5	5.00	7.57	2.57	*
学生 5	5	4.45	6.83	2.38	*
学生 6	5	2.95	5.30	2.35	*
学生 7	23	3.13	5.16	2.02	*
学生 8	5	3.79	5.67	1.88	*
学生 9	23	7.00	8.77	1.77	
学生10	5	5.83	7.55	1.71	*
学生11	4	6.53	8.22	1.69	
学生12	4	7.37	9.04	1.68	*
学生13	4	6.16	7.78	1.62	*
学生14	23	5.89	7.47	1.58	*
学生15	23	5.79	7.36	1.57	*
学生16	23	4.74	6.00	1.26	*
学生17	4	6.47	7.71	1.24	*
学生18	23	4.56	5.73	1.18	
学生19	5	5.17	6.33	1.17	*
学生20	23	6.00	7.13	1.13	*
学生21	4	5.11	6.18	1.08	
学生22	4	5.95	7.00	1.05	*
学生23	5	5.30	6.32	1.02	*
学生24	23	8.11	9.09	0.99	*
学生25	4	3.53	4.50	0.97	*
学生26	4	4.00	4.95	0.95	*
学生27	4	7.83	8.78	0.94	*
学生28	4	3.58	4.48	0.90	*



学生	クラス	春学期平均	秋学期平均	秋学期—春学期	Quizlet 活用者
学生29	23	4.95	5.78	0.83	*
学生30	4	5.61	6.43	0.82	
学生31	5	4.00	4.68	0.68	
学生32	4	4.24	4.86	0.63	*
学生33	23	6.89	7.50	0.61	
学生34	5	7.75	8.32	0.57	*
学生35	5	7.05	7.61	0.56	*
学生36	4	5.05	5.57	0.51	
学生37	5	4.94	5.44	0.50	*
学生38	4	6.79	7.26	0.47	*
学生39	4	4.00	4.44	0.44	*
学生40	5	4.95	5.39	0.44	*
学生41	23	8.79	9.23	0.44	*
学生42	23	4.58	5.00	0.42	
学生43	23	3.84	4.21	0.37	*
学生44	4	7.95	8.26	0.31	
学生45	5	3.00	3.29	0.29	
学生46	23	7.32	7.57	0.26	*
学生47	4	4.47	4.70	0.22	
学生48	5	4.90	5.06	0.16	*
学生49	4	3.11	3.24	0.13	*
学生50	4	5.84	5.95	0.11	*
学生51	5	3.00	3.10	0.10	*
学生52	5	4.53	4.61	0.08	
学生53	5	1.61	1.68	0.07	
学生54	5	4.67	4.70	0.03	*
学生55	5	5.17	5.14	-0.02	*
学生56	4	3.74	3.62	-0.12	
学生57	23	6.00	5.87	-0.13	*
学生58	4	7.32	7.18	-0.13	*
学生59	23	6.89	6.68	-0.20	*
学生60	23	4.89	4.68	-0.21	*
学生61	4	5.00	4.71	-0.29	

学生の授業外学習を促す試み

学生	クラス	春学期平均	秋学期平均	秋学期ー春学期	Quizlet 活用者
学生62	5	3.68	3.37	-0.32	*
学生63	5	5.11	4.61	-0.50	*
学生64	5	6.63	6.11	-0.53	*
学生65	5	5.95	5.41	-0.54	*
学生66	23	9.70	9.15	-0.55	*
学生67	4	9.79	9.23	-0.56	
学生68	23	5.58	5.00	-0.58	
学生69	23	5.28	4.68	-0.59	*
学生70	5	3.65	3.05	-0.60	*
学生71	5	4.89	4.29	-0.61	
学生72	23	7.11	6.48	-0.63	
学生73	23	6.58	5.95	-0.63	
学生74	4	3.65	2.95	-0.69	
学生75	23	7.00	6.25	-0.75	
学生76	5	3.36	2.41	-0.95	*
学生77	23	5.58	3.39	-2.19	
学生78	23	3.65	1.39	-2.26	*
学生79	4	4.74	2.38	-2.36	
学生80	23	5.17	2.55	-2.62	*

(あいはら・さとみ 英語国際学部准教授)

